



大阪錦画新話

東京南傳馬町

とたや味岡三島丸
 治つて居るころ 栞木嫁

舞雀村の喜三郎が

息子の力妻

田舎に洒落

半学を習ひてサのそごごと

多の服も多れぬ尿合別

がたまふ當つては巡査りよん見付らば引張られて是を鷹は

送らまへん多とたつて物敷奇と笑されり上まが栞木嫁

豊吉といふ者の息子又今年三由ある男が若の時のり廿

来る旅役者よあつち年當身ものを合とてあつちゆ鳴

見やうや布子まで脱してはやや商賣も行つたらんサ

髪結その評判もいふと高の額を縛りつけてこそよといふ

かまへん美由見上となつての懸麻様を構えよる百認

こころは違式常ふあはぬ阿らるるあれとちる咄ら報知 六九号

新話

河日父也

サトラ

大阪錦絵新話5号 文庫10-8067-4

